

記 入 日 2014年 1月 17日

## 1. 概 要

実践団体名	社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会		
連絡先	06-6913-7070		
プランタイトル	福祉避難所開設訓練 ―災害救助法の活用を目指して―		
プランの対象者 <sup>※1</sup>	10 地域住民・17 防災関係者 19(福祉関係専門職)	対象とする 災害種別 <sup>※2</sup>	7 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント！】

「福祉避難所」の開設準備にあたり、何をどうすればいいのかわからないまま、言葉だけが浸透している状況があります。そこで、避難所の設置・運営に当たり、どのようなことが必要なのかを学習や実際の福祉避難所開設・運営訓練をもとに福祉施設や行政を中心にみんなで一緒に考えます。そのことによって、災害救助法の知識を共有・活用しながら、災害時要援護者の避難支援対策の充実化を図っていきます。

## 【プランの概要】

- 福祉避難所の運営についての講演会・シンポジウムの実施  
(みんなで知識を共有し、一緒に考える場の設定)
- 福祉施設における福祉避難所開設訓練の実施
- 行政・地域住民と連携した防災訓練への福祉事業者(社会福祉施設・介護保険事業者)の参加による福祉避難所機能の周知
- これらの取り組みを地域一福祉事業者一行政が一緒になって考えていく
- これらの活動成果を踏まえた、福祉避難所に関するパンフレット・ガイドブックの作成

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 福祉避難所開設への準備が進むことで、災害時要援護者の避難支援の最終フェーズである、安全な避難場所・生活空間の確保がより実質化される。
- 福祉事業者が安心して福祉避難所の指定を受け、準備を行うことができる。
- 取組みを区内の福祉関係者がともに実施し、福祉避難所ならびに災害救助法の知識を共有することで、地域一福祉事業者一行政との間の連携が強化される。

## 2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	計画準備	取り組みについての 関係者間の協議・調整	
5月	協議・調整等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           介護保険事業者連絡会            社会福祉施設連絡会            障がい者自立支援協議会への協力依頼         </div>	
6月		講演会についての 関係者間の協議・調整	
7月	講演会の実施	福祉避難所訓練の 関係者間の協議・調整	講演会開催
8月	福祉避難所訓練 ワークショップ実施		
9月		地域の防災訓練の参加 のための資料・資材作成 及び関係機関との調整	福祉避難所開設訓練・ワークショップ 実施
10月	中間報告	シンポジウム準備	地域の防災訓練への参加 (～1月) 中間報告会
11月	運営訓練報告会 シンポジウム		シンポジウム開催
12月		振り返り	福祉避難所開設 ガイドブック作成
1月	パンフレット作成		
2月	最終報告		最終報告会
3月			

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：  1 】※3

タイトル	福祉避難所の現状と課題
実施月日（曜日）	平成25年7月11日(木)
実施場所	大阪市鶴見区民センター 小ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：黒田 裕子 所属・役職等：NPO 法人 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 担当者・講師等の区分：講師 氏 名：阿部 一彦 所属・役職等：社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	実際に福祉避難所の運営をされた方の話を聞くことで、福祉避難所の現状と課題、必要性を認識し、福祉避難所のイメージをつくる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 福祉事業者・行政と一緒に打合せを重ねる 2. 地域・福祉事業者・行政へ参加依頼 3. 講演会の開催 ・1部「避難所における要援護者支援のあり方」支援者の立場から ・2部「東日本大震災における福祉避難所」避難所開設の立場から
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・大分大学 山崎栄一准教授のアドバイス ・地域役員、社会福祉施設職員、介護保険事業所職員等の参加 ・パワーポイントの使用
参加人数	167名
経費の総額・内訳概要	約195,000円（講師謝礼、資料作成経費等）
成果と課題	【成果】 阪神大震災と東日本大震災における福祉避難所の現状を聞き、福祉避難所の必要性を認識し、少しのイメージを作ることができた。講演会の中から、地域の防災訓練において地域住民へ災害時の要援護者対応について伝えていくための題材を探すことができた。  【課題】 災害にあっていない大阪市とのギャップによりイメージがわからないため福祉避難所開設訓練を実際に行いイメージを高める必要がある。
成果物	

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	福祉避難所開設・運営訓練
実施月日（曜日）	平成25年9月2日(月)
実施場所	特別養護老人ホーム リベルタ・ヴィータ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：平山 昭子 所属・役職等：地域包括担当 主査
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	福祉避難所
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉事業者・行政と一緒に打合せを重ねる ※特に福祉避難所開設・運営訓練を実施する施設とは何度も打合せを重ねた</li> <li>訓練の際の被害想定及びシナリオの作成</li> <li>避難者のシナリオの作成</li> <li>大分県社協 ○○氏への福祉避難所運営についての聞き取り</li> <li>福祉避難所開設・運営訓練の実施 (区の災害対策本部とのやり取り、避難者の受け入れ)</li> <li>グループワーク(振り返り、避難者の立場、施設職員の立場、観察者の立場)</li> <li>訓練の様子の撮影及び編集</li> </ol>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>段ボールベッド</li> <li>トランシーバー、携帯</li> <li>人材(地域、介護保険事業所、区役所、包括、社協)</li> </ul>
参加人数	33名
経費の総額・内訳概要	約75,000円(講師謝礼、ホワイトボード、付箋等)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者間で福祉避難所のイメージが描けるようになった</li> <li>福祉避難所開設訓練の必要性がわかった</li> <li>様々な視点から、福祉避難所運営における課題を抽出することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政と福祉避難所との連携がうまくいかなかった。</li> <li>実際の業務をこなしながら避難者を受入れるマンパワー不足。</li> <li>地域との連携の取り方</li> <li>訓練に参加していない地域役員、施設等とのイメージの共有化。</li> </ul>
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉避難所開設・運営訓練の様子を撮影した映像</li> <li>福祉避難所運営に関わる記録様式、訓練実施の際のシナリオ</li> </ul>

【実践プログラム番号：  3 】※3

タイトル	鶴見区における福祉避難所開設に向けての現状と課題
実施月日（曜日）	平成25年11月22日（金）
実施場所	大阪市鶴見区民センター 小ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：中川 和之 所属・役職等：防災教育チャレンジプラン実行委員 担当者・講師等の区分：アドバイザー講師 氏 名：山崎 栄一 所属・役職等：大分大学 准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	福祉避難所開設・運営訓練の様子及びその際に抽出した課題点について地域・福祉事業者等と共有し、今後の対応について検討する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 福祉事業者・地域・行政と一緒に打合せを重ねる 2. 福祉避難所開設・運営訓練の中で出てきた課題の整理 →シンポジウムで検討・整理すべき課題の抽出 3. 地域・福祉事業者・行政へ参加依頼 4. シンポジウムの実施 ・1部「福祉避難所開設・運営訓練の報告」訓練をDVDで流す。 ・2部シンポジウム「鶴見区における福祉避難所開設に向けて」
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・大分大学 山崎栄一准教授、防災教育チャレンジプラン実行委員の中川和之氏のアドバイス ・地域役員、社会福祉施設職員、介護保険事業所職員等の参加 ・パワーポイントの使用 ・DVDの使用
参加人数	115人
経費の総額・内訳概要	約190,000円（講師謝礼、資料作成費等）
成果と課題	【成果】 9月に区内の福祉施設で実施した訓練の様子、課題を地域、福祉事業者等と一緒に共有することができた。 区内の施設職員、地域の自主防災組織からもシンポジストとして取り組みを話してもらうことで、身近なところでの状況を共有することができた。 【課題】 9月の訓練の際に出てきた課題について、今後も1つ1つ対応を検討していく必要がある。
成果物	

## 【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	自分の脈拍を測ってみよう！
実施月日（曜日）	平成25年10月～平成26年1月 計6回
実施場所	区内小学校等（小学校等の避難所）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 区社協及び包括支援センター職員 所属・役職等：大阪市鶴見区社会福祉協議会
所要時間または「コマ数×単位時間」	1回10分程度 × 約30回
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事、2 講習会・学習会・ワークショップ、11 出前授業、16 避難・防災訓練
活動目的※5	7 技術を身につける
達成目標	自分の脈拍を測れるようになり、災害時においても健康チェックをできるようになる（今後は、他人の健康チェックをできるようになることも想定）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 7/11 の講演会において今後伝えていくテーマの抽出 2. ミニ講座をするための題材、資料等の作成 3. 地域の自主防災組織や区役所との調整 4. 3を踏まえて該当地域の福祉事業者との調整、参加呼びかけ 5. 福祉事業者とともに防災訓練におけるミニ講座の実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自主防災組織の訓練の場の活用</li> <li>・訪問看護ステーション、福祉施設等の看護師を中心とした福祉事業者の協力</li> <li>・上記人材と連携しながらの説明用の資料・資材の作成</li> </ul>
参加人数	参加者：約2500人 うち、福祉事業者の協力者：約50人
経費の総額・内訳概要	約21,000円（資料作成経費、説明用資材作成経費等）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の参加者が正しい脈拍の測定方法を身につけると同時に災害時でも簡単にできる健康チェックの方法として脈拍測定という方法があることへの気付きを促すことができた。</li> <li>・地域の防災訓練の場に福祉事業者が参加することにより、地域—福祉事業者—行政のつながり作りにつながった。</li> <li>・脈拍の測定方法説明のためのツールを作ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、「自分の脈拍を測定する」ということを重視し、次年度以降、他人の脈拍測定（要援護者への対応）もできるような内容を盛り込んでいく。</li> <li>・福祉避難所としての福祉施設の役割と避難所を開設する地域の自主防災組織との連携を深めていく必要がある。</li> </ul>
成果物	脈拍測定方法の説明用資料、資材

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画をどのように立てるのか。</li> <li>・今までの取り組みをどのように生かすのか。</li> </ul> <p>&lt;工夫した点&gt;</p> <p>昨年度までの取り組みを今年度の取り組みへとつなげていけるように工夫した。</p> <p>また、年間の流れとして、「現状を知る・イメージする」→「実際に訓練を実施してみて、現状を認識し、課題を抽出する」→「課題についてみんなで共有し、検討する」といった一連の流れを意識し、プランを立案した。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所開設訓練の時の被災状況等の設定</li> <li>・避難者の設定</li> <li>・施設協力が得ること</li> <li>・行政との調整</li> <li>・トランシーバー</li> </ul> <p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に福祉避難所の運営をされた方、福祉避難所の訓練をされた経験のある方にアドバイスをもらった。</li> <li>・訓練の想定を作る際に、鶴見区が取り組んできた救急カプセル、段ボールベッド等の既存のものが活用できるかの訓練も取り入れた。</li> <li>・脈拍測定の実演講座の資料作成、実施の際にも福祉事業者に協力してもらい、連携と協働により作成した。</li> <li>・地域・福祉事業者・行政に呼びかけをし、打合せ段階から一緒に関わってもらえるような体制づくりをした。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>&lt;苦勞した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の限られた時間の中で、どのように講演会やシンポジウム等のプログラムの内容を組み立てるのか。</li> <li>・福祉避難所の訓練に参加をしていない人たちに訓練の様子をどのように伝え、理解してもらうか。</li> </ul> <p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウムや訓練の報告の際に、映像を使い、イメージを共有できるようにした。また、報告やシンポジストとして、当団体だけでなく、区内の地域や福祉事業者等、多くの方に発表をしてもらうことで、地域や福祉事業者等にとっても身近なものになるように工夫した。</li> <li>・地域―福祉事業者―行政とのつながりを意識し、3者をすべて巻き込みながら実施した。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	大分大学 山崎栄一准教授	防災教育チャレンジプラン全体に係る助言
保護者・ PTAの組織		
地域組織	鶴見区内地域活動協議会 地域ネットワーク委員会  地域活動協議会・地域自主防災組織	シンポジスト 講演会・シンポジウムへの参加協力 実施する防災訓練への協力
国・地方公共団体・ 公共施設	鶴見区役所  区役所職員	年間を通しての取り組みを協働実施 訓練の様子のDVD作成
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	・介護保険事業者連絡会 ・包括支援センター ・鶴見区社会福祉施設連絡会	年間を通しての取り組みを協働実施



## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉避難所の開設に当たっての情報伝達の難しさや実際に経験された先生の講演を聞き、その後実際に開設訓練を実施したことで、福祉避難所についてのイメージが関係者間で少しでもイメージできるようになった。</li> <li>・一般の地域住民に対して、要援護者支援についての啓発していく1つのツール（脈の測り方測定のみニ講座）を福祉事業者の協力を得て作ることができた。また、そのツールを活用し、地域と連携しながら、啓発を行うことができた。</li> <li>・一連の取り組みを通じて、地域—福祉事業者—行政の連携体制を作っていくきっかけになった。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に福祉避難所を運営していくにあたっては、行政との連絡体制の確立や支援者の人員確保等多くの課題が出てきた。</li> <li>・福祉避難所の指定を受ける施設についても、リーダーの育成、動線の確保など様々な準備が必要であることがわかった。</li> <li>・一般の避難所でどのようにトリアージをし、どのように福祉避難所につないでいくのかの仕組みづくりが必要。</li> <li>・以上を踏まえて、地域（収容避難所）—福祉事業者（福祉避難所）—行政（災害対策本部）がどのように連携を取ることができるのかを、今後も訓練等を通じて考えていくことが課題である。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、福祉施設と地域の自主防災組織が連携しながら、地域防災訓練と福祉避難所開設訓練を合同で実施していき意識づけをしていきたい。</li> <li>・また、福祉避難所開設訓練については、今年度のシナリオ地域を活用しながら、区内の施設において訓練を継続的に実施していく。</li> <li>・脈拍測定のみニ講座についても、今年度作成した資料を活用しながら、次年度も防災訓練等の場を活用し、継続的に実施していく。</li> </ul>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

(自由記述: 3/3)